



平成 11 年 5 月 28 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 1 号機の今後の運転方針について(福井のみ)

当社は、本日、福井県並びに敦賀市に対し、敦賀発電所 1 号機（沸騰水型、定格出力 35 万 7 千キロワット）の今後の運転方針について別紙のとおり取りまとめ、ご報告いたしました。

当社といたしましては、今後とも発電所の安全・安定運転に努めるとともに、地元の皆さまの一層のご理解・ご協力をいただけますよう、今後とも最大限の努力を行っていく所存であります。

以上

別紙 敦賀発電所 1 号機の今後の運転方針について

敦賀発電所 1 号機の今後の運転方針について

敦賀発電所 1 号機（以下敦賀 1 号機という）は、昭和 45 年 3 月 14 日に運転開始して以来、来年で 30 年目を迎えることとなりますが、当社としましては敦賀 1 号機の今後の運転継続について、以下の方針を基に対処したいと考えておりますのでご報告致します。

敦賀 1 号機は、運転開始以降、定期検査毎に点検・保守や設備の補修、更新さらには応力腐食割れ等の予防保全対策に積極的に取組むなど、発電所の健全性や安全性の向上に努めてきているところであります。

また、高経年化への対応としましては、敦賀 1 号機の安全に係わる全ての機器を対象として、経年変化に対する健全性の評価を行い、本年 2 月 8 日に国及び関係自治体に報告させて頂いたところであります。今回の検討結果では、従来から実施してきた点検・保守に加え、高経年化に対応した長期保全計画を策定し適切に実施していくことで、今後の運転継続においても機器の健全性は確保されると評価されました。

従いまして、上記の長期保全計画を適切に反映した点検・保守等を順次行っていくとともに、予防保全対策にも積極的に取組んでいくことにより、今後の運転継続における設備の健全性や安全性の確保は十分図られるものと考えております。

以上のような技術的評価に加え、電力供給における原子力の役割、地元経済に対する影響等を総合的に勘案し、当社としましては、敦賀 1 号機を今後 10 年程度、十分な安全確保の基に運転を継続する所存であります。

なお、敦賀 1 号機の運転停止の時期につきましては、今後、エネルギーセキュリティ、地球温暖化対策などに果たす原子力の役割や地元経済への影響等について検討し、関係個所と十分な協議の基に、当社としての総合的な経営判断を行っていく必要があると考えており、近々、具体的な検討を開始したいと考えております。

以上